



「支縁」について

神戸国際支縁機構 理事
淀川キリスト教病院 名誉院長

白方誠彌

新約聖書のヨハネによる福音書十三章三十四節に、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」とのイエスの教え

傾聴ボランティア

石巻市旧渡波の地域には、在宅被災者が四千人ほどいらっしゃると思います。総合病院もありません。ケアマネージャー、介護士、ヘルパーも震災前とちがっておられませんか。防波堤、高台移転、道路工事など二千二百六十億円の行方、福祉関係はゼロです。仮設住宅（一万五千人 約七千二百九十七戸）に百六十人ほどしか見回りがいません。みなし仮設（一万六千人）には年末から二十名の見回りが採用されましたが、十名になっていきます。一方、在宅被災者（一万五千人）には見回り、行政、ボランティアが一度も訪問していない地域があります。機構は昨年六月から、戸別に訪問しています。民生委員たちと協働で地図作りに取り組み、まちづくり仕えていきます。ひとりひとりが地図と蛍光ペンを持ちながら、次回に備えて留守宅なども記録していきます。

伊勢町、浜松町、黄金浜町の住人の間では、震災時に体験した試練を第三者に吐露する機会はないようです。「神戸から来ました」と語る若者たちが外部の人だから話がしやすいかもしれません。したがって、

があります。これは人類の終局の目標であり、マザーテレサは、その生涯を通して実践された方でした。神戸国際支縁機構の東北へのボランティア活動は、このイエスの教えを着実に実践されていると敬意を表します。この体験を通して、それぞれの方々にとって、人生を歩む上で特別なお恵みがあると確信すると同時に、神様の祝福を祈りたいと思います。

家族を失ったご近所の方たちの前ではお互いに話せない生き残った時の体験を話されるのです。心の奥にしまっていたお話を打ち明けていただきます。被災者がたまっていた思いを、阪神・淡路大震災の時点で生まれていなかった、または幼かった若者たちには安心して吐き出されるのです。毎月お会いするうちに相手も待っておられ、縁で結ばれています。被災者とボランティアの互いの心が重なり合うのです。

「牡鹿新聞」発行所の平塚淳子さんの体験（二〇一三年二月十九日 神戸夙川学院大学教員山脇敬子氏と共に）

「牡鹿新聞」社は、一九四九年創刊以来、地域の人々の暮らしを伝え続けてきました。現役記者の平塚俊夫氏（88歳）と息子平塚宏行氏（44歳）、淳子さん（44歳）の三人で切り盛りしています。震災当時、自宅兼発行所は、海岸沿いにあったので三メートル近い津波が押し寄せ、天井まで浸かり、印刷機械が稼働不可能になりました。一階は全壊、二階まで水がきました。

半年を経て発行再開しています。震災前の三分の一の千部を発行するまでに回復しました。女川を含めて町では大切な情報

記事にしています。（NHK総合二〇一一年九月二十六日放送）。その土地は地盤が緩んでいる恐れがあるために、いまだに水が引かない状態です。そこをあきらめ、二百メートル離れた場所に引っ越しです。渡波地域の亡くなった方が掲載されている牡鹿新聞（二〇一二年九月七日付）を出していただきました。一面に、渡波地区で亡くなった五百四十七人の名前、年齢がぎっしり書かれています。県警発表に基づいて、遺族が公表を希望した名前のみで、正確



ではありません。なぜなら行方不明、死者数の正確な調査はすすんでいないからです。

淳子さんは牡鹿新聞にある一人の名前を指さし、「ようこは私のおばなんですけど、避難しようと思っ

て一緒に逃げたんですけど、目の前で死んだので」と話されました。

「考えたら三百六十度くるつとまわった感じでしたね、今思うと潮の流れだったのかも。ここまで浸かってしまったため車を置いて逃げようとした。おばは高齢で足腰も丈夫な方ではありませんでした。おばを引き上げようとしたが、できませんでした。津波で、夫のおじも犠牲になりました。」（次号に続く）

もちつき大会

木戸 佳奈子

二〇一三年一月二十二日、宮城県石巻市渡波の万石浦幼稚園（北川禮子園長）にて餅つきをしました。

あいにくのお天気にも関わらず、元氣いっぱい園児と園児たちの親御さん、地元の三百名以上にお集まりいただきました。農や、在宅被災者戸別訪問と平行しての作業でした。

二百名以上の分のおもちを用意すると聞いた時は、「もちつき」などとしたことがなく、何からしたらいいのかさっぱり想像できませんでした。宿泊している修館の小野寺玉枝夫人やボランティアみんなのお母さんの存在の小島美奈子さんが手馴れた手つきで私たちに的確に指示してくれたおかげで、不安もなく、準備をすることができました。地元の方は喜んでくれるだろうかと期待しながら、前日の晩から二俵（六十kg）ものもち米を洗いました。当日使われる大量のお湯を沸かし、電気ポットに入れて保温して備えました。翌朝、五時起床で、次から次へと蒸籠（せいろう）でもち米を炊きました。炊きあがったふくら

としたもち米は幼稚園でつく分と、餅こね器ですについておいた分と小野寺館長の息子さんが作った立派な杵と臼二つと一緒に運びました。

宿舎から四十分かけて、もちつき会場の万石浦幼稚園に向かいます。すでに幼稚園の先生、園児の母親たちや渡波婦人会（須田勝子会長）もスタンバイできている状態でした。また涼風園（中居勉施設長）からお借りした杵と臼もありました。渡波地区復興協議会（吉野雄一会長）の開会のセレモニーもありました。園長先生から子どもたちに、五人のボランティアがなぜ神戸から来たか、阪神・淡路大震災の時、どうだったか、お話をするように依頼されました。薬剤師の榎原英朗氏は前回、石巻に来てからケニアに行った体験を園児たちに話しました。ゲームをしたりして子供たちと、餅つきが始まるまで楽しい時間を過ごしました。

準備が整い、一ヶ所は屋内で、二ヶ所は軒下で「べったんべったん」と餅つきが始まります。最初はもちをつくコツも分からなかったのですが、魚谷浩さんが「まずは杵を寝かせて、こめつぶを潰すようにならしてから、こいうやってつくんだよ」と見本を見せてくれました。

最初のもちをつくコツも分からなかったのですが、魚谷浩さんが「まずは杵を寝かせて、こめつぶを潰すようにならしてから、こいうやってつくんだよ」と見本を見せてくれました。

楽しく餅つき大会
大勢が参加にぎわった
浦園 石巻幼稚園
当日はあいにくの雨は「みたらしダンゴ」や「きなこ餅」など、おでん、煮物など、参加者全員に振舞われました。最後、吉野会長が「感謝のこと」



手も婦人会の方が見事なタイミングで、餅をつくる人の左に座り上手にされていました。その光景に「これがもちつきか」と見とれてしまいました。

園児たちが集まってきた、本格的にもちつきを始めます。「どうやってするの?」と言わなければに興味深そうに見ていました。「やってみる?」と聞くと、嬉しそうに「うん」と答えます。子供用の小さな杵を渡すと、小さな体で重たい木杵を持ち「よいしょ!」とかわいい声で餅を一生懸命つくうとしている姿がとても愛らしかったです。室内ではついた餅を園児たちの一口サイズと大人の一口サイズとにちぎり、きなことみたらしと二種類作りました。東北のきなこはうぐいす色をしているのに驚きました。関西では黄土色が一般的ですが、東北ではうぐいす色が主流だそうです。婦人会の大島ます子さんたちとお話することが出来、地元の方とも「もちつき」を通して交流することができてとても楽しかったです。私も幼稚園の時にもちつきをしたことがあり、うっすらと記憶があります。地元の千葉幸一氏、阿部清義氏、米谷富宏氏、丹野清市会議員、小野寺脩氏、平塚俊夫氏たちもお餅をほおばりながらおいしいとよるこんでおられました。ここにいる子たちも今日の事が少しでも記憶に残ってくれたら嬉しいなと思いつつ、万石浦幼稚園の先生たちに見送られながら、次のボランティア活動に移りました。



株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長
上田 利昭
tutu.anna

MiYOSHI
ミヨシ石鹸株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

竹中工務店
www.takenaka.co.jp

新生田川共生会
(ホームレス自立支援の会)
TEL 078-392-0327
東日本大震災以降、
神戸国際支縁機構に協力

東日本大震災と阪神・淡路大震災の被害の比較

	東日本大震災	阪神・淡路大震災
死亡※	15,848人	6,434人
行方不明者※	3,305人	3人
漁船	>22,000隻	17隻
漁港※※	300以上	17
農地	23,600ha	213.6ha
被害額	16~25兆円	9.9兆円

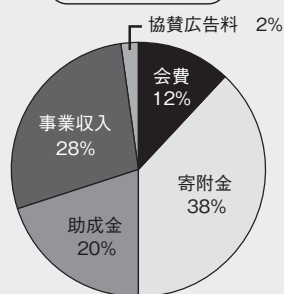
※2012年2月10日現在

※※石巻市内全漁港44港が全て被災、防波堤破損流出多数、定置網・養殖施設もほぼ全滅

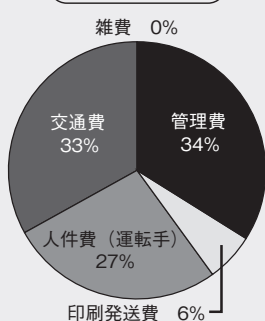
出典：「『死』を考える」講座から抜粋 講師 亀山 紘 石巻市長
(2012年4月23日 神戸新聞会館)

2012年度神戸国際支縁機構収支報告

2012年度収入



2012年度支出



(単位 円)

収入		支出	
会費	976,000	管理費	2,847,462
寄附金	3,220,140	印刷発送費	535,758
助成金	1,700,000	人件費(運転手)	2,280,000
事業収入	2,324,500	交通費	2,797,614
協賛広告料	180,000	雑費	6,883
(年度収入計)	8,400,640	(年度支出計)	8,467,717
(前期繰越金)	245,210	(次期繰越金)	178,133
合 計	8,645,850	合 計	8,645,850



Humanity First

「ヒューマニティ・ファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会

ヒューマニティ・ファストは、震災翌日の3月12日、千人分の食料を積み込み名古屋から被災地へと出発。石巻市内の避難所でパキスタンカレーを提供。当機構と連携する団体です。

稲刈り(その二)

山本 智也

二日目は、三・五反全部の稲刈りを終えることと、天日干しのためのやぐらづくりが課題です。阿部勝徳さんが、「これ全部刈り取らないと、地元で神戸国際支縁機構は笑いのものになる」と活を入れました。するとボランティアの皆さんにエンジンがかかりました。手で刈る人一人に對し、束ねる人は三・四人の割合です。交替で休憩をとりながら、作業に全力投球し、後半の猛烈な追い込みでなんとか田んぼアートの面は刈れました。



稲架掛け

乾燥は太陽と風の手でゆつくりと乾燥させます。私たちは天日干しに挑戦します。日本中、天日干しの風景は少なくなりました。「稲架掛け」は三本の木で三脚を二組作って、その上に長い竹竿をのせます。この竹竿の上に稲をかけていきます。宮城県、岩手県では「ほによ」というイースター島・モアイ像のような天日干しがよく見られます。天日で干した稲は、さんさんと輝く太陽の力と海からのさわやかな



ほによ

の米粒へ降りてくると言われています。ですからボランティアの愛情がまったおしいお米に仕上がります。作業が夕方になり、「稲架掛け」や「ほによ」が夕日に染まってとてもきれいでした。日本の子どもたちにつなげたい風景の一つだと思います。(次号に続く)

風を受けま。昼夜の寒暖差によりアミノ酸と糖の含量が高くなります。また稲を逆さまに吊るすことで、稲穂の油分や栄養分、甘みが最下部

特定非営利活動法人
みもぞ
TEL 078-262-0460
医療・保健介護・
福祉・教育に関する事業
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は
本田商会
〒662-0051 西宮市羽衣町5-23
電話：0798-38-7560
FAX：0798-38-7561
お気軽にご相談ください。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

夢に近づく
夢を産み出す...
KINSAN
近畿産業信用組合
総合コールセンター
0120-111-019

連載「田・山・湾の復活」(その二) 自然と共に生きる

岩村 義雄

東北地方も日本の他の地域と同じように、海の近くの沼地がなくなりつつありました。住宅のため更地になったり、大きな水田にするために自然環境が変わりました。ですから津波が襲った時、海から四十キロ離れた奥地に

いに飛んでいた小さな虫ユスリカもいません。食べる虫がいなくなったツバメも消えています。

自然は人間が恩恵を受ける源です。ところが、田山湾はお金を儲ける所になってしまいました。食欲を満たすために農業、成長させるためにホルマリン、能率のはかどる機械類を使います。命あるものの食物の安全など一切考えません。人間が自然界の何よりも偉いかにように振る舞います。里山にいたスズメやミツバチが少なくなりました。夕方になると空いつば



戸別訪問の際、書き込む部分地図。地元の民生委員と協働して作成

1 沼地などの減少により生息地がせぼめられ、絶滅危惧種に指定されているイトトンボ。
2 「聖典と現代社会の諸問題」(樋口進キリスト新聞社二〇二一年76-77頁)

くお世話ですねばかりありません。だが、利得のため、公害、汚染、傲慢な支配によってだいたしにしてきました。自然と共に生きる原点に帰りましょう。

にまで水が覆ったのです。海岸や河口の湿地を住みかにするヒノマイトトンボはどうなったでしょうか。¹神戸から二年間訪問していますが、出合えません。温暖化により、北へ移動していったトンボ、蝶の住みやすい居場所がなくなりつつあります。
人間に地球を治めるようにという神の言葉があります。「神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。』」(創世記一「ヘブライ語カーヴァシ」や「支配せよ」「リーダー」が使われています。リーダーは「羊の群れ」を導く)(エゼキエル三十四・4『新英語聖書』)にあるように暴力的に抑えつけるのではありません。²人間は自然をやさ

(社)神戸国際支縁機構

・ボランティア募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

・被災地への支援物資もお願いします。

・年会費をお願いします。

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

事務局長 本田 寿久

編集後記

4月13日の早朝、淡路島を震源地として地震がありました。急な揺れで目を覚まし、阪神淡路大震災が頭をよぎった方も多かったのではないのでしょうか。

私自身、18年前を鮮明に思い出しました。災害を改めて身近に感じると共に、備えのないことに不安を感じました。ほぼ1週間に、千島列島、宮城県沖、三宅島近海、鳥島近海にM6級の揺れが相次ぎました。

阪神・淡路大震災の時は、4か月で倒壊した家屋の多くは撤去されました。しかし、東北では津波で更地になったままか、住めなくなり、住んでいた人の生存すらわからないで放置されている家が点在しています。復旧、復興、再建が遅々として進んでいない東北。にもかかわらず、ボランティアのNPOなどが次々と撤退しています。財政が底をついたからです。三回忌も終わりましたが、国、県も何もしようと、つぶやく被災者たちの心は凍てついています。地面を匍うような小さな動きですが、私たちの来るのを待っていてくださるので神戸から今月も向かわせていただきます。

(古川 潤)

ご協力を感謝します。

2013年1月18日～3月31日

垂水朝禱会、白承豪、日本基督教団神戸栄光教会、甲斐田敏、本田陽太郎、岩村カヨ子、鈴木淳之介、東垂水ルーテル教会、権英富、村上タカ、深田明美、保田 薫、清野貴幸、春名純人、ゲーベルひでみ、酒井彰、酒井久美子、野崎隆一、平山武秀、西上千栄子、渡辺英俊、鈴木武八、中山敬一郎、杉田哲、廣森勝久、石巻森林組合、福田啓太郎、有川善雄、塩屋キリスト教会、松谷信司、三浦敏壽、道閑雅俊、匿名、北村恭男、坂東滋巳、森祐理、内貴八郎右衛門、支縁のまちネットワーク、川端 勝、椿勇太郎、菅澤邦明、原田洋子、樋口進、北村徹、畠中美希、鬼頭庸介、佐谷文子、本田哲郎、塩屋キリスト教会(バザー)、岩村義雄

2月26日、ある方は、50年分として年会費@2,000円×50=10万円を前納してくださいました。感謝申し上げます。

合計 1,002,000円 出納 村上裕隆

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口 2,000円/1年

賛助会員は、一口 5,000円/1年

・郵便振替 口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱東京UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄